

指導のポイント ③

◎3合目（動詞文）

各課の構成と使い方（共通）・・・ 本冊「テキストガイド」をご覧ください。

Ⅰ 課 きゅうしょくの 前に

<この課のねらい・CanDo>

・人がどこにいるか、物がどこにあるか、説明できる。また、それを聞いて人や物を探すことができる。

<先生方へ>

存在所在を表す動詞「あります」「います」を正しく使い分けられるよう学習します。また、自分の前後左右に誰がいるか、自分の席が前から何番目かなど、自分で表現したり、聞き取れたりできるようになるといいですね。

<主な指導文型・語彙・表現>

- ① 「～は、～にあります。」（物の所在）
- ② 「～さんは、～にいます。」（人や動物の所在）
- ③ 「～は、どこにいますか。」（疑問詞「どこ」、場所を表す助詞「に」）
- ④ 位置詞…上、下、中、右、左、前、後ろ など

<ポイント>

- ①② 人や動物など生き物は「いる（います）」、無生物は「ある（あります）」

導入例) 実物を示しながら「～さんは、教室にいます。」「ほうきは、あそこにあります。」など

ただし、以下の例には注意

例) 水族館に魚がいます。(生き物の魚) / スーパーに魚があります。(商品の魚)

駐車場にバスがあります。/(人が乗降中の)バスがいます。

- ③ 疑問詞「どこ」+に

実物を示しながらやり取りで導入する。

導入例) T:～さんは、どこにいますか。

C:教室にいます。

- ④ ・ 位置詞は何を基準にするか注意して教える。例えば、自分の右と向かい合っている人の右は違う。前後も同様に丁寧に教える。教室の座席を例にすると理解しやすい。「私の右に、Aさんがいます。」
- ・ 学年によっては方角（東西南北）を教えてもいい。地図を活用する。
小3以上なら、この文型を使って「学校は神社の北にあります。」など、社会科の学習につながる。
 - ・ 家の各部屋の名称にふれるのもよい。(例: 玄関、リビング、トイレ、お風呂など)

2 課 あゆみさんと カイさん

<この課のねらい・CanDo>

- ・自分や友達のすることについて話することができる。
- ・自分の行動を時間の経過を追って話することができる。

<先生方へ>

この課では、目的語「～を」を伴わない自動詞を取り上げます。自分や友達のする行動、動作について「○○は××します。」といった動詞の短文で話せるようになることが目標です。

動詞の肯定形「～ます」、否定形「～ません」、疑問形「～ますか」といった形は、この後に続く動詞の活用の基となります。

<主な指導文型・語彙・表現>

- ①「～さんは、～ます。」(自動詞、平叙文)
- ②「～さんは、～へ～ます。」(動作が向けられる方向を表す助詞「へ」)
- ③「～さんは、○時に～ます。」(時間を表す助詞「に」)「何時に～ますか。」(時間を尋ねる疑問詞「何時」)
- ④「～さんは、～ません。」(否定文)
- ⑤頻度を表す副詞…全然、少し、たくさん

<ポイント>

- ① 自分の生活の中の行動を表す動詞を導入する。ここでは、目的語を伴わない動詞のみ扱う。
イラストや実際の動作とともに、文を導入する。
導入例) T:(実際に動作をしながら) 私は、歩きます。私は、勉強します。
- ② 「家へ」「学校へ」など、目的地を明確にした上で、矢印で動作が向かう方向を示す。「行きます」の前の助詞は「～に」を使う場合もあるが、ここでは「～へ」に統一する。
- ③ 「時間+に」をセットで教える。
時計の読み方や時間の概念理解を確認する。('2 合目もういっぽ①じかんのことば」参照)。
- ④ 動詞の否定形の作り方…「おきます→おきません」 変換の練習を口頭でもする。
- ⑤ 頻度を表す言葉(毎日、時々、全然～ません)や量を表す言葉(少し、たくさん)は具体例を提示して教える。
導入例) T:(カレンダーを指差しをしながら) Aさんは、毎日勉強します。Bさんは、時々勉強します。
Cさんは、全然勉強しません。
「全然+～ません(否定形)」をセットで教える。

3 課 めいさんの 休日

<この課のねらい・CanDo>

・一日の自分の生活を時系列に沿って説明できる。

<先生方へ>

目的語「～を」をともなう動詞を学習します。話し言葉では助詞が抜けても意味が伝わりますが、書き言葉では助詞が必要です。特にこの課では、教師は助詞を省略せずに意識して話してください。また、疑問詞を使った質問をすることで、子どもの思考が広がり、ことばの量が増えていきます。

<主な指導文型・語彙・表現>

- ①「～さんは、～を～ます(か)。」(他動詞、平叙文&疑問文)
- ②「何をしますか。」「どこへ～ますか。」「だれと～ますか。」(疑問詞+助詞…「何を」「どこへ」「だれと」)

<ポイント>

- ①「(目的語)+を～ます。」

子どもの生活場面に即した動詞を吟味したい。2 課と同様、イラストや動作とともに導入する。その際、助詞「を」にも着目させる。

導入例) T: (「洗います」の絵カードを見せながら) 洗います。

C: 洗います。

T: (「顔を洗う」ジェスチャー) 顔を洗います。私は顔を洗います。

- ② I 合目・サバイバル日本語で、表現として扱ってきた疑問詞を「なかまのことば しつもんのことば」のページで整理する。生活に即した Q&A をしながら整理するとよい。

例) T: C さんは、日曜日、何時に起きますか。

C: 7 時半に起きます。

T: 日曜日、どこへ行きますか。

C: スーパーへ行きます。

T: 誰とスーパーへ行きますか。

C: お母さんと行きます。

T: 何を買いますか。

C: お菓子や野菜を買います。

*「よみましょう」で学校行事と水泳の授業について扱っている。このように実際の行事や活動について語彙を選び提示すると、子どもの理解が促され、一緒に参加することができる。

もういっば⑧ そうじの ことば

<p><もういっば⑧のねらい・CanDo></p> <p>・掃除に関する言葉が分かり、友だちと掃除ができる。</p>
<p><先生方へ></p> <p>多くの国では、子どもたちは学校の掃除をしません。動作を実際に見せながら一緒に掃除してみましょう。</p>
<p><ポイント></p> <p>・1 合目「そうじ①②」でも扱っているが、ここでは、文として聞いて理解し表現できることを目標としている。</p> <p>例)「ほうき!こう!」→「これはほうきです。」「床をはきます。」掃除道具と動作を一致させる。</p> <p>・「～を～ます」の形の文だけ扱っている。「ほうき<u>で</u>はきます。」「雑巾<u>で</u>床をふきます。」といった手段を表す助詞「で」は、3合目 6 課で扱う。</p>

4 課 きのう したこと

<p><この課のねらい・CanDo></p> <p>・休みの日、誰と何をしたか、自分のしたことが言える。日記が書ける。</p>
<p><先生方へ></p> <p>学校生活以外のことを話題にする中で、子どもたちの新たな一面が垣間見えるかもしれません。しかし、まだわからない言葉もたくさんあるでしょう。絵を描いたり、パソコンや辞書などで調べたりしながら、その子が言いたいことを日本語にしてあげましょう。伝えたいことが言えるようになった喜びを、書く意欲へとつなげていきましょう。</p>
<p><主な指導文型・語彙・表現></p> <p>①「～は、～を～ました。」(過去形、平叙文)</p> <p>②「～は、～を～ませんでした。」(過去形、否定文)</p> <p>③「それから、～を～ました。」(接続詞「それから」)</p> <p>④「～は、何をしましたか。」(過去形疑問詞疑問文)</p> <p>⑤場所の名称と「～<u>へ</u>行きました。」「どこも行きませんでした。」</p>
<p><ポイント></p> <p>①② ・日本語の動詞は時制によって形が変わることをしっかり理解させる。</p> <p>「たべ<u>ま</u>す→たべ<u>ま</u>した」「たべ<u>ま</u>せん→たべ<u>ま</u>せん<u>で</u>した」口頭でも練習する。</p> <p>・文型学習の際には、その文型を使って「何ができるか」(この課では「日記が書ける」)を常に指導者は意識する。</p> <p>③ 順接の接続詞「それから」。出来事を時系列に説明できるようにする。</p> <p>④ 文を書く時に必要な「いつ」「誰と」「どこへ行った」「何をした」という要素を自然に使えるようにしたい。</p> <p>(「どこで」の初出は 3 合目 5 課)</p> <p>⑤ ・場所の名称を整理する。「かきましよう」では、未習の場所の語彙が出てくるので、イラストや写真とともに導入する。その他にも子どもの生活場面に即した場所を吟味する。</p> <p>・本冊では扱わないが、応答の一例として「どこも行きません(でした)」も教える。</p> <p>例) Q: 日曜日、どこへ行きましたか。 A: どこも行きませんでした。</p>

5 課 いどう教室

<この課のねらい・CanDo>

- ・どこへ行くのか、そこで何をするのか、助詞の使い分けを理解する。「～する」などの行動の文が言える。
- ・授業によって教室が変わることを理解し、指示に従って行動できる。

<先生方へ>

学校の教室名を学習しながら、どこへ行き、そこで何をするのか関連付けて語彙を増やしていきましょう。

<主な指導文型・語彙・表現>

- ①「～は、～で～を～ます。」（動作の場所を表す助詞「で」）
- ②「どこで～を～ますか。」（場所を尋ねる疑問詞「どこ」+「で」）

<ポイント>

- ① ・ 動作の場所を表す助詞「で」の用法をしっかりと押さえたい。
導入例) T: ここは教室です。私は、勉強します。→ 私は、教室で勉強します。
・ 場所を表す助詞には「に」もある。混乱しやすいので、指導者は用法の違いを理解しておく。
例) 「教室に先生がいます。」 「教室で先生が勉強を教えます。」
・ 学校内の教室名の確認をしっかりする。高学年はルビを付けて漢字で認識させるのもよい。
・ 「うんどうじょう」「としよしつ」などの名称は地域や学校によって呼称が異なるので注意。
例) うんどうじょう or こうてい としよしつ or としょかん
- ② 学校の各教室の名称を覚える。学習した文型を使って学校探検。Q&A をしながら教室の名称を覚える。
会話例1) T: ここはどこですか。 会話例2) T: どこで歌いますか。
C: 音楽室です。 C: 音楽室。
T: 音楽室で…? T: そうですね。音楽室で…?
C: 音楽室で歌います。 C: 音楽室で歌います。
・ 「はなしましょう」で家の周りの店などの施設の名称とそこで何をするか、Q&A をしながら確認する。

3合目のふりかえり①

- ・ 疑問詞に呼応する答え方を身に付けさせたい。自分事として答えられるよう、子どもの生活に即したQ&Aを心がけてほしい。

例) T: ○○さんの筆箱はどこにありますか。 C: 机の上にあります。

T: ○○さんは何時に起きますか。 C: 6時半に起きます。

- ・ 練習問題は、問題形式に慣れて自力でできるようになるまで、指導者が一緒に取り組む。

6 課 工作を しましょう

<この課のねらい・CanDo> ・作業の手順の説明がわかる。
<先生方へ> 低学年なら図工、高学年から中学生なら委員会活動や理科の実験の手順などを、「(道具) <input type="text"/> (物) <input type="text"/> ~ます」という文型を意識して提示しましょう。作業ができたという実感が持てれば自信につながります。
<主な指導文型・語彙・表現> ① 「～は、～で～を～ます。」(道具を表す助詞「で」)
<ポイント> ① この課では道具の「で」を扱う。具体的な動作を伴うので理解しやすい。 導入例) T: これは、はさみです。切ります。→ はさみ <input type="text"/> 切ります。 本文の説明の通り、実際に写真飾り(フォトフレーム)を作ってみるのもよい。 ② 課全体を通して多くの道具や文房具の名称を扱っている。道具とその機能をマッチングさせると覚えやすい。 ③ 「いいましょう」に、学習活動で頻繁に使用する道具などが紹介されている。機能とともに言葉を教えたい。

7 課 しゅうがくりよう

<この課のねらい・CanDo>

- ・高学年の代表的な学校行事がわかる。
- ・目的地までの交通手段が言えるようになる。

<先生方へ>

この課では、交通手段を表す助詞「で」を学びます。バスなどの交通手段を利用して出かける学校行事について、話せるようになります。また、この機会に学校行事について話したり、児童がどうやって日本に来たのか話題にしましょう。(手段を問うときの「何で」は、理由をたずねる「なんで」と混乱しやすいので、このテキストでは「なにで」に統一します。)

<主な指導文型・語彙・表現>

- ① 「～は、～へ～で～ます。」(手段を表す助詞「で」)
- ② 「何で～ますか。」(手段を問う疑問詞「何で」)
- ③ 「～へ行きます。」「～へ来ます。」(往来動詞)

<ポイント>

- ①・「乗り物」「場所」といった上位語の概念があれば理解がしやすい。
導入例) 東京タワー、バス、行きます → 東京タワー ☐へバス ☐で行きます。
・ここでは、て形は未習。「歩いて」は表現として扱う。
・「スカイツリーへ」「バスで」は順番が逆でもいい。(バスでスカイツリーへ行きます。)
- ②・手段を問う疑問詞「何で」は「なにで」「なんで」と一般的に二通りの言い方がある。理由を問うときに「なんで」を使う頻度が高いことから、ここではそれと区別するために「なにで」を扱う。(手段「なんで」を使用するテキストも多い。)
・「何で」「どこへ」行ったか、「どこで」「何を」したかがわかれば、行事の感想文が書ける。
- ③「行きます」「来ます」を往来動詞と言う。どちらも移動を表す動詞だが、「行きます」は人や物が目的の所へ移動する時、「来ます」は人や物が自分の所に移動する時(=到着点が自分)に使う。母語によってはとらえが異なる場合もあるので注意する。

もういっば⑨ いいん会の しごと

<もういっば⑨のねらい・CanDo>

・係や委員会の活動に参加できる。

<先生方へ>

当番や委員会活動だけでなく、社会科見学やキャンプ、修学旅行などの校外学習においての班での役割など、学校生活には子どもたちの役割が多岐にわたってあります。誰と、いつまでに、何をするのか、要点を絞り簡潔な文で伝えましょう。

<ポイント>

- ・ ここでは新しい文型はない。これまで学習した文型で場面に即した語彙を使えば、子どもたちは学校生活の様々な場面について説明を聞いて理解できるということを指導者に知ってほしい。
- ・ 表現に出てくる「注意をします」と「お願いをします」の違いを具体例を出して理解させる。
例) ろうかを走ります。危ないです。→ 先生は注意をします。
暑いです。まどを開けます。→ 先生はお願いをします。
- ・ 高学年には委員会、低学年にはクラスの係などについて、名称と仕事を紹介する。

8 課 ももたろう

<この課のねらい・CanDo>

- ・授受表現を理解し、誰に何をあげるか、誰に何をもらうかわかる。
- ・日本の有名な昔話を知る。

<先生方へ>

日本の多くの子どもたちが知っている「桃太郎」を読みながら、授受表現を学びます。絵本などを見ながら進めるのもいいでしょう。何かをもらったりあげたりした経験があれば、話してもらいましょう。

<主な指導文型・語彙・表現>

- ① 「～は～に～をあげました。」(主語の動作が相手に向かう。)
- ② 「～は～に～をもらいました。」(相手の動作が主語に向かう。)
- ③ 「～こずつ」

<ポイント>

- ①② 実際の物のやり取りで、視点の変化と動作が向かう方向がはっきりわかるように導入する。

導入例) 太郎さんは花子さんにプレゼントをあげました。

花子さんは太郎さんにプレゼントをもらいました。



- ① 「～に」の部分に「わたし」は入れない。

例) 太郎さんはわたしにプレゼントをあげました。(×)

- ② 受け手を“わたし”“わたしの家族”にすると動詞が「くれる」になる。視点が混乱するので、この課では「もらう」だけを扱うように例文の提示に気を付ける。

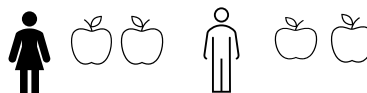
例) 花子さんは太郎さんにケーキをもらいました。→OK

花子さんは私にケーキをもらいました。(×) → 花子さんは私にケーキをくれました。(○)

→ ①②ともに「～に」の部分が「わたし(わたしの家族)」にならないよう注意する。

- ③ 「～ずつ」=「同じ量をそれぞれに」 算数や理科など教科学習で多用される表現だが、言葉だけだとわかりにくいので、具体物で見せて理解を促す。

例) りんご、ひとり2こずつ



9 課 何を したい？ 何が ほしい？

<この課のねらい・CanDo>

- ・自分のしたいことや将来の夢が言える。
- ・相手の希望や意見に耳を傾けることができる。

<先生方へ>

「将来の夢」といっても、保護者の職業以外の仕事を知る機会がなければ夢は描けません。世の中にはどんな仕事があるか、ぜひ話題にしてください。

<主な指導文型・語彙・表現>

- ① 「～は、～がほしいです。」(願望を表す形容詞「ほしい」)
- ② 「～は、～が～たいです。」(願望を表す「動詞の語幹+たい」)
- ③ 順接「だから」
- ④ 語彙「お世話をする」

<ポイント>

- ① 「ほしい」は「名詞+が+ほしい」の形になる。例) わたしは、アイスがほしい。
- ② 「～たい」は「動詞のます形+たい」の形になる。例) わたしは、アイスが食べたい。
(「遊びたい」を「遊びほしい、遊ぶほしい」といった誤用がよく見られるので、形をしっかりと押さえない。)
- ①② 「ほしい」「たい」は基本的に話し手の願望を表す表現で、第三者に使うと不自然になる。第三者の願望を表す場合は、「そうだ」「～たがる」「らしい」「と言っています」などをつけるが、ここでは扱わない。話し手の表現にとどめる。
例) 太郎さんはアイスがほしい。(△) → 太郎さんはアイスがほしそうだ。ほしがっている。
太郎さんはアイスが食べたい。(△) → 太郎さんはアイスが食べたそうだ。食べたがっている。
- ③ 否定形「ほしくないです」は本文中には出てこないが、教える必要はある。活用はい形容詞(4 合目)と同じ。
- ④ ・否定形「食べたくない」も同様、次の課で学習するい形容詞と同じ活用をする。
例) 食べたい→食べたくない / 高い→高くない
・ 目上の人に対しては「～たいですか」は失礼にあたるので使わない。
例) 先生、お寿司が食べたいですか。(×) → 先生、お寿司はいかがですか。
先生、何が食べたいですか。(×) → 先生、何を召し上がりますか。
- ③ 2 つの文の因果関係がわかりやすい例文や、以下のようなやり取りで導入する。
導入例1) 私はケーキが好きです。だから、パティシエになりたいです。
導入例2) C: 私はパティシエになりたいです。
T: どうして?(なんで?)
C: ケーキが好きだからです。 → ケーキが好きです。だから、パティシエになりたいです。
- ④ 「お世話をする」のように使用範囲が広かったり、抽象度が高い言葉は、具体例を複数出して語意を理解させる。
例) 赤ちゃんにミルクをあげる。赤ちゃんのおむつをかえる。赤ちゃん遊ぶ。= 赤ちゃんのお世話をする。

3合目のふりかえり②

・疑問詞に呼応する答え方を身に付けさせたい。自分事として答えられるよう、子どもの生活に即したQ&Aを心がけてほしい。

例) T:〇〇さんは何で公園へ行きますか。 C:自転車で行きます。

T:△△さん、誰にプレゼントをもらいましたか。 C:□□さんにももらいました。

・練習問題は、問題形式に慣れて自力でできるようになるまで、指導者が一緒に取り組む。